

知ってほしい、レビーのことを。

第14回



レビー小体型認知症 サポートネットワークとやま 特別講演会

アルツハイマー型に次いで多いレビー小体型認知症。
いまもっとも注目されている認知症について学びましょう。

2019年

6 / 29 (土)
14:00～16:20
(受付13:30)

会場：富山県立大学富山キャンパス
教育棟 1階 大講義室

定員：約250名

参加費：無料

対象：一般の方、専門職者
認知症の人、ご家族

講演 &
質疑応答

主催：県立大学老年看護学講座
DLBSN富山
後援：富山県

栗岡 紀世美 氏

「レビーの義母を介護した体験
～知識とケアの力で変わる暮らし～」

レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会EJ京都 代表

山口 晴保 氏

「レビーの症状・治療・ケアの実際
～ポジティブ思考でみんな笑顔に～」

認知症介護研究・研修東京センター センター長

山口 晴保氏

1976年に群馬大学医学部を卒業後、群馬大学大学院博士課程（医学博士）を修了。2016年9月まで群馬大学大学院保健学研究科教授。認知症の医療（日本認知症学会専門医）やリハビリテーション医学（日本リハビリテーション医学会専門医）を専門とされている。脳βアミロイド沈着機序をテーマに30年に渡り病理研究を続けて来られたが、その後、臨床研究に転向し、認知症の実践医療や認知症の脳活性化リハビリテーション、認知症予防等にも取り組まれている。

演者
profile

栗岡 紀世美氏

2007年10月、義母（当時77歳）がレビー小体型認知症と診断される。10年以上在宅介護を続け、義母は療養型病院に入院し現在に至る。適切な治療とケア次第で普通に暮らせる時間が少しでも長くなるということを経験し、日々の介護の中から実感。2009年2月レビー小体型認知症の介護家族に特化した集い「関西きらきら組」を発足する。2ヶ月毎の開催で、それぞれの経験からレビー小体型認知症への理解を深める一方、適切なケアや治療をその都度検討し合い、本人と家族の「困った」を小さくしながら共に穏やかに暮らせるよう取り組み続ける。

司会： 林 浩靖（DLBSN富山代表、光ヶ丘病院 認知症看護認定看護師）
座長： 鈴木 道雄（富山大学大学院 医学薬学研究部 神経精神医学講座 教授）
竹内 登美子（富山県立大学 看護学部 学部長・老年看護学講座 教授）

【富山県立大学 老年看護学講座宛て】

FAX：076-464-5473

E-mail：dlbsn2017@gmail.com

*QRコードからでも申し込みができます。

資料準備のため事前申し込みが必要ですが、当日参加も可能です。



お申込書
Application form

お名前（ふりがな）

お立場（ご家族、専門職等）

ご質問事項（できるだけ質疑応答の時間に回答致します）

●アクセスマップ

住所：富山県富山市西長江2丁目2番78号

【公共交通機関ご利用の場合】

あいの風とやま鉄道富山駅から、地鉄バス「中央病院行」約20分、または地鉄電車「栄町駅」下車後徒歩10分

【お車でお越しの場合】

富山ICより車で約20分

*本学駐車場には限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用ください。

●お問い合わせ

レビー小体型認知症サポートネットワーク富山事務局 老年看護学講座 青柳

*今回は富山県立大学老年看護学講座内への事務局設置に伴う特別講演会です。

